

平成 30 年度 第 1 回 明石市地域総合支援センター運営協議会 議事要旨

日 時	平成 31 年 2 月 4 日 (月) 13:30~15:15
場 所	明石市役所議会棟第 3 委員会室
出席者	委員 8 名 (欠席 2 名) (傍聴者 5 名)

議事 平成 29 年度明石市地域包括支援センター等運営事業の実績報告	
事務局	資料説明「平成 29 年度明石市地域包括支援センター運営事業報告」
矢野尾委員	「3 介護予防支援・介護予防ケアマネジメントについて」の中で研修のことが書かれています。ケアマネジャーの質を上げるためには、以前から研修が必要だと言われていたのですが、課題として日常業務やケース対応等で外部研修への参加が難しい状況にあると説明がありました。昨年度はどのくらいのケアマネジャーが研修を受講されたのですか。
事務局	人数は把握していませんが、介護予防支援・介護予防ケアマネジメントを主担当としているケアマネジャーについては法定研修はもちろん、アセスメント研修等にも参加しているところです。
会長	研修に参加しづらい理由の分析が必要です。分析なくして計画的な研修参加は難しいので、数値を見ながら検討していただきたい。
議事 平成 30 年度明石市地域総合支援センター運営事業の事業計画	
事務局	資料説明「2018 年度 明石市地域総合支援センター事業計画書」
下村委員	二見校区での災害の取組みは地域に根差した活動をしている。例えば衣川校区等、災害に見舞われやすい地域に対してのアプローチは行っているのか。そもそも地域総合支援センターですべきことなのかを含めて説明していただきたい。
事務局	防災については地域性がありますので、各地域総合支援センターの生活支援コーディネーターが地区社協、まちづくり協議会等に参加し、災害時要配慮者への支援などに関する情報交換を行い、地域の計画の中に福祉的な視点を入れる支援を行っています。小学校区、中学校区ごとに取り組んでいる事業や防災活動等に生活支援コーディネーターや専門職等が参加し、いざという時に地域の人と一緒に災害時要配慮者を助けられるようコーディネートしています。
前田委員	民生委員は災害時要援護者台帳や一人暮らし台帳を持っている。台帳に載っている人との関わりはあるが、健康な人や家族と一緒に住まいの人とは関わりがない。載っていない人からの相談がないため、直接地域総合支援センターに相談に行っているのかもしれない。地域総合支援センターにおけるそのような人の相談対応状況はどうなっていますか。
事務局	個別ケースの困りごとを民生委員からお聞きし、地域総合支援センターの

	<p>職員が対応した場合は、その結果を民生委員に報告し、一緒に支援しています。地域総合支援センターが開設されてから、ひきこもりの相談や今まではなかった様々な相談があり、手を尽くして対応しています。このような人も地域で生活していますので、民生委員にもその人を知っていただき、一緒にサポートしていくのが望ましいと考えています。しかし、個人情報の問題などがあることから、センターで対応していることが多くなっています。今後は、地域ケア会議の開催などを通じて、地域の居場所づくりや個人の抱えている問題について、地域の力をお借りしながら支援できるように一緒に考えていきたい。</p>
会長	<p>つながりは一足飛びにはできない。特に個人情報の関係は大きな課題となる。丁寧に対応や方針を考えていかないといけない。</p>
佐藤委員	<p>地域総合支援センターは、すぐに対応してくれて助かっている。先日の地域のボランティア交流会に地域総合支援センターが参加しているが、こういう地道な活動が大事です。ただ、ケアマネジャーとの関わりはあまりないので、ケアマネジャーにもこういう催し物や地域のサロン等にも来ていただきたい。おおくぼ総合支援センターの職員はいつも参加していただいています。担当は何人いるのですか。1か所の地域総合支援センターで何人が活動しているのですか。</p>
事務局	<p>ふたみ総合支援センターは1中学校区を1つの圏域とするため7名ですが、おおくぼ総合支援センターは4中学校区を1つの圏域とするため19名の職員がいます。他のセンターは13人から14人程度で校区数によって人数が変わります。</p>
前田委員	<p>野々池校区の担当は何人ですか。</p>
事務局	<p>野々池校区につきましては、生活支援コーディネーターが1名、主任ケアマネジャーが1名、社会福祉士が1名、医療職は欠員のため望海校区と合わせて1名が担当しています。</p>
会長	<p>このような情報が民生委員と共有しきれていないところがあるので、しっかりと情報を共有してほしい。顔の見える関係性を構築すると情報共有がしやすくなるので工夫してほしい。</p>
矢野尾委員	<p>いくつか質問します。この1年間に困難事例が1,000件から3,000件の相談がありますが、その中に複合多問題は何件ありますか。また、生活支援コーディネーターはどういう人がなっていますか。ふたみ総合支援センターが行う、ボランティアサポーターができることをカードにしてマッチングしている取組は市の事業となっていくのですか。さらに、地域総合支援センターの広報にしっかり取り組んでいる。家族がサロンに参加していますが、地域総合支援センターの職員が広報を兼ねてよく参加していると聞いています。広報を通じて地域総合支援センターのことがよく取り上げられてお</p>

	り、広報活動としてはよく動いており、表現できている。
事務局	4月から12月までの9か月間で延21,000件の相談があり、そのうち複合多問題は5,500件です。生活支援コーディネーターの職種としては、社会福祉士、ケアマネジャー資格を有する人や、在宅介護支援センターからの出向者や社会福祉協議会で生活支援コーディネーターの経験した人が就いています。各中学校区に1名ずつの計13名と、市域全体に1名の生活支援コーディネーターが配置されています。ふたみ総合支援センターの取組について、この取組は地域の課題や困りごとの話し合いをもとに生まるので、この取組が広がることも十分考えられます。各地域総合支援センターはさまざまな工夫をしており、好事例を発掘、普及していきたい。おおくぼ総合支援センターなどが地域向けの広報誌を作成・広報に努めていたり、来年度生活支援コーディネーターの具体的な取組を掲載した広報誌を作成・広報する予定です。
議事 指定介護予防支援等一部委託事業所	
事務局	資料説明「指定介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務一部委託事業所一覧」
議事 明石市地域総合支援センター運営事業の評価	
事務局	資料説明「地域総合支援センターの評価の実施について」「地域総合支援センター 評価指標」
会長	自己評価のため総じて点数を低くつけているのではないか。これからの評価は数値化が求められています。評価票について、定性を定量に無理やり変えているので明確な基準があるようでないところです。専門職としてどこを目指していかなければならないかが難しい。点数を上げることに重きを置きがちになるが、評価自体が目的ではなく、あくまで地域総合支援センターの支援がより良いものになり、結果として評価が良くなればよいと考えるのが正しい。評価基準はありますが、まず地域総合支援センターの目の前で起こっている課題を一つずつ丁寧に取り組むことにより、評価点数が上がっていく。評価を目的とはしないでいただきたい。